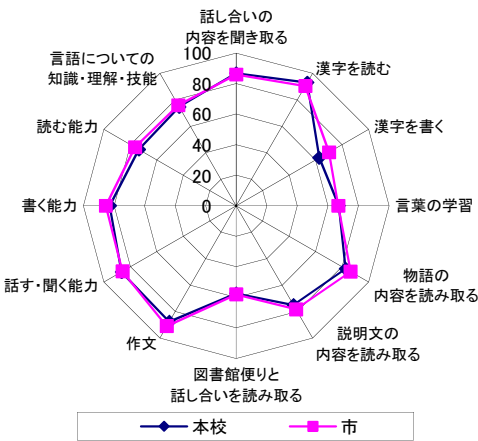


宇都宮市立昭和小学校 第6学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	86.7	85.9
	漢字を読む	93.1	90.4
	漢字を書く	62.7	70.1
	言葉の学習	67.1	66.9
	物語の内容を読み取る	82.7	86.5
	説明文の内容を読み取る	75.0	78.4
	図書館便りと話し合いを読み取る	57.4	58.1
	作文	87.7	91.0
観点別	話す・聞く能力	86.7	85.9
	書く能力	82.9	85.4
	読む能力	73.7	76.6
	言語についての知識・理解・技能	74.7	76.0



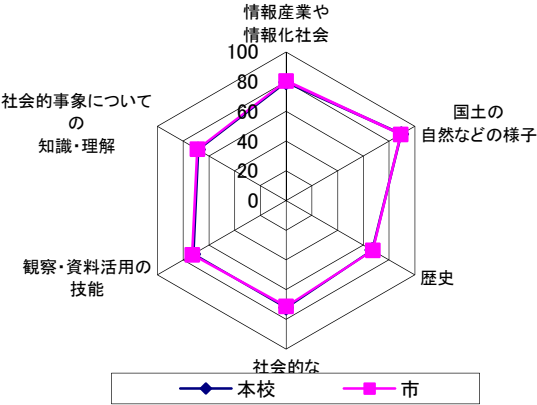
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	・平均正答率は約87%で市の平均を上回っており、ほぼ身についているといえる。 ・設問別に見ると、話し手の意図を考えながら聞くことはよくできているが、話し手の話し方の工夫を考えながら話の内容を聞く問題は正答率76%と低かった。	・今後も1分間スピーチなどを継続し、自分の意見をしっかりと伝えられるようにするとともに、相手の意図を考えて聞いたり、自分の考えと比べて聞いたりする習慣をつけ、考えながら聞くことができるようにする。また、話を聞いた後に、話の内容に沿って自分の意見や感想をまとめ、述べられるようにしていく。
漢字	・漢字を読む問題の平均正答率は約93%で市の平均を上回っており、ほぼ身についているといえる。 ・漢字を書く問題に関しては平均正答率約63%で市の平均を約7ポイント下回っている。 ・設問別に見ると、第5学年配当漢字の書き(判断、綿)の正答率が特に低かった。	・5学年までに学習した漢字について、特に「書き取り」の練習を重点的に行い、定着を図る。同じ部首の漢字や似た意味の漢字、同訓・同音の漢字や送り仮名などについても復習し、さらなる定着を図る。 ・読書の奨励や辞書の活用などにより、漢字に触れる機会を増やし、学習した漢字を使って文章を書こうとする意識と習慣をつけ、より幅広い漢字の知識が身に付くようにする。
言葉の学習	・平均正答率は市の平均を上回っているものの、約67%とあまり高い数字ではない。 ・設問別に見ると、熟語の構成はよくできていたが、敬語の使い方(尊敬語、謙譲語)の問題の正答率が特に低かった。	・漢字辞典の引き方について復習をし、新出漢字やわからない漢字を漢字辞典を使って自主的に調べる習慣をつけていく。 ・日常生活の中で使用している言語、特に敬語について、正しい使い方ができるよう、日ごろから意識づけをしていく。
物語の内容を読み取る	・平均正答率は約83%と高いが、市の平均はやや下回っている。 ・設問別に見ると、登場人物の心情を読み取る問題はよくできていたが、登場人物の様子を読み取る問題は比較的正答率が低かった。	・登場人物の様子や心情を読み取る学習を意図的に行い、読む力を高める。 ・今後も読書タイムや読み聞かせの機会に多くの物語に親しませて読書に対する関心を高め、読書量を増やし、読解力を高めていく。
説明文の内容を読み取る	・平均正答率は約75%で市の平均を下回っている。 ・設問別に見ると、文と文のつながりを考えながら読み取る問題などはよくできているが、文章の内容を読み取り、他の例に当てはめて考える問題の正答率は約46%と極めて低かった。	・説明文を読む機会を増やし、接続詞に着目して文章の構成を考える学習などを行い、段落と段落の関係をとらえたり、文脈に即して書かれている内容を読み取ったりする力を伸ばしていく。
図書館便りと話し合いを読み取る	・平均正答率は約57%と低く、市の平均もやや下回っている。 ・設問別に見ると、資料を正しく読み取り、適切にまとめる問題の正答率は約37%と極めて低かった。	・新聞やパンフレットなどの資料から、必要な情報を読み取り、簡単な文章でまとめる学習に取り組む機会を多くする。 ・他教科(社会科・総合)との関連も図りながら、資料から情報を読み取ったり、必要な情報を資料にまとめたりする学習を意図的に取り入れる。
作文	・平均正答率は88%で、市の平均はわずかに下回ったものの、おおむね身についているといえる。 ・中学生になったらやってみたいことを書く問題であったが、95%以上の児童がやってみよう理由も添えて書くことができた。	・よく身に付いていると言えるが、行事の感想や日ごろの学習の振り返りなど、児童の感動や思いを適時文に表現させる機会を今後も設け、さらに書く力をつけていく。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	情報産業や情報化社会	79.6	80.5
	国土の自然などの様子	89.4	89.0
	歴史	66.9	67.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	72.2	71.3
	観察・資料活用 of 技能	72.2	73.1
	社会的事象についての知識・理解	68.5	69.0



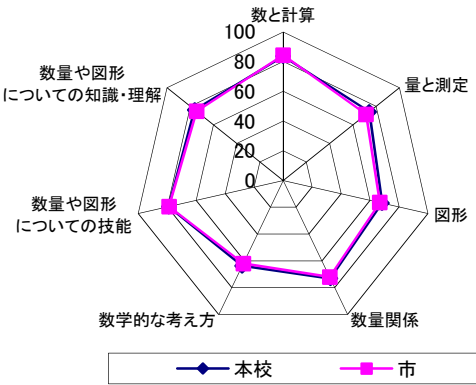
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
情報産業や情報化社会	・平均正答率は約80%で、市の平均とほぼ同じである。 ・設問別に見ると、情報と産業の関わりについて考察する問題では、正答率が約74%で市の平均を下回っている。また、情報を利用する際の注意点について判断する問題では正答率が85%を超え、おおむね定着している。	・日常的に新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、世の中の動きなどについての興味を持たせるようにする。朝の会や日記指導・スピーチなどの機会に、時事問題などの話題を提供し考えさせるようにする。 ・話題となっている社会事象について積極的に調べ学習を行い、情報と産業の関わりについての考えを深める。
国土の自然などの様子	・平均正答率は約89%で、市の平均とほぼ同じでありほぼ定着しているといえる。 ・設問別に見ると、森林に関する内容に合う資料を選択する問題では正答率が95%以上であった。一方、森林のはたらきについての理解を問う問題では、正答率が約80%と十分ではなかった。	・県発行の「森林・自然体験活動事例集」を活用し、身近な森林や自然についての関心を高めるとともに、大気汚染などの時事問題についても話題として取り上げ、改めて森林の持つ役割について考えさせるようにする。 ・複数のグラフから自分の意見を述べるために必要な資料を選択するなどの学習活動を通して、社会的思考力を高めていく。
歴史	・平均正答率は約67%で、市の平均とほぼ同様であるが、定着が十分ではない。 ・設問別に見ると、織田信長が天下統一の際使用した武器の種類や、不平等条約の改正に尽力した人物などを問う問題では、正答率約90%と高かった。複数の資料から共通項を見出す問題では正答率が30%台と低く、資料の活用が十分ではない。	・複数の資料から共通点を見出したり、自分の考えを述べるために必要な資料を選択したりする活動を継続的に行うことで、社会的な思考力・判断力を高めていく。 ・社会科見学の体験や自身の旅行の経験などを想起させ、日本の歴史に興味を持ち、自主的に歴史上の人物について調べることを推奨する。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	83.6	84.3
	量と測定	74.1	71.3
	図形	68.2	66.7
	数量関係	73.1	72.1
観点別	数学的な考え方	63.7	62.0
	数量や図形についての技能	79.0	78.8
	数量や図形についての知識・理解	76.2	74.6



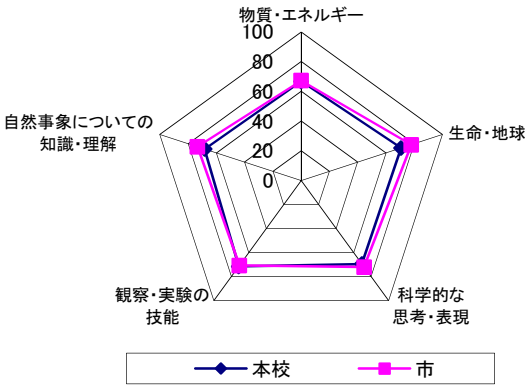
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	- 平均正答率は約84%でおおむね身についているといえる。 - 設問別に見ると、分数の乗法、除法の計算はいずれも90%以上の正答率だったが、分数、小数、乗法、除法の混じった計算は比較的正答率が低かった。 - 分数÷分数に関する文章題の正しい式を選択する問題の正答率は約39%と低かった。	- 分数の乗法・除法を重点的に復習し、さらなる定着を図る。特に、分数を小数に、小数を分数に直す問題や、乗法・除法の混じった計算などに繰り返し取り組みさせるようにする。また、数量が「分数」で表されている文章問題を重点的に復習し、定着を図る。 - 計算の途中で約分できる場合には確実に約分し、正しく計算できるようにする。
量と測定	- 平均正答率は約74%で市の平均は上回ったものの、十分に身についているとは言えない。 - 設問別に見ると、速さに関する問題の正答率が低く、定着を図りたい。面積と体積については、特に三角柱の体積を求める問題の正答率が低かった。	「速さ」の問題は理解するのも難しく個人差もあるので、重点的に復習して更なる定着を図る。特に、「速さ」「時間」「道のり」のそれぞれを求める式を立てる場合には、問題をよく読み、何を求めるのかをしっかりとらえて正しく立式できるようにする。 6年間の総復習として、既習の面積や体積の公式を確認し、中学校に向け定着させておきたい。
図形	- 平均正答率は約68%で市の平均は上回ったものの、十分に身についているとは言えない。 - 設問別に見ると、「正六角形の対象の軸が何本あるか」、「半径から円周を求める式」を求める問題などの正答率が低かった。	- この領域も個人差があるので、いろいろな平面図形や立体の性質などについて復習し、定着を図る。 - 特に「線対称や点対称な図形の性質」については重点的に復習し、「対称の軸」や「対称の中心」などについてしっかり理解させ、線対称や点対称な図形を見分けたり、かいたりできるようにする。
数量関係	- 平均正答率は約73%で市の平均はわずかに上回ったものの、十分に身についているとはいえない。 - 設問別に見ると、「比と比例」の問題は、市の平均と比較してもよくできているが、「百分率とグラフ」の問題は、正答率が50パーセントを下回るものもあり、定着が不十分である。	- 割合の考え方がわかりにくく、定着しない現状があるので、比較量等の意味を理解させながら、練習問題の反復に心がける。 「比例と反比例」については重点的に復習し、それぞれの数量関係(2つの数量の関係)の特徴をしっかりとらえさせ、比例や反比例の式が正しく立てられるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	66.7	67.2
	生命・地球	70.6	77.9
観点別	科学的な思考・表現	69.5	72.0
	観察・実験の技能	71.5	70.7
	自然事象についての知識・理解	68.3	73.4



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・平均正答率は約67％で市の平均とほぼ同様である。 ・設問別に見ると、水の温度を下げるとホウ酸の溶解度が下がり溶け残りが生じることを問う問題や、空気が入れ替わらないところで物が燃えない理由を問う問題で正答率が低かった。	・「ものの溶け方」では、物質による溶解度の違いや、温度の影響を受ける物質、あまり受けない物質などがあり、実験の際に整理してまとめるよう配慮する。 ・実験を行う前に科学的な根拠をもとに予想させ、結果からなぜそうなったのかを十分に考えさせ、科学的な思考力を高めることができるよう配慮する。
生命・地球	・平均正答率は約71％で市の平均を約7ポイント下回った。 ・設問別に見ると、胎盤の名称とそのはたらきを問う問題では、正答率が約35％と低かった。また、肝臓のはたらきを問う問題でも、正答率が約37％で定着が不十分であった。	・「動物の誕生」では、人の母体内での成長について、連続的に成長していくことをとらえにくいので、魚の卵の成長と関連付けながらまとめるようにする。 ・知識として定着が図れるよう単元の最後のまとめで、学んだことをもう一度、振り返れるようにしていく。 ・日頃から、自分の体や健康についての関心を高め、呼吸や消化などの仕組みについて科学的に理解できるよう配慮する。